

長野市観光の現状と課題把握 ～各種調査等の結果報告～（概要版）（1／2）

実施概要 長野市観光の現状と課題を把握するため、以下の調査等を実施してきた。本書では、各調査等の特徴的な結果等について、取りまとめる。

名称	実施内容	主な結果
1	ギャップ調査 長野市観光資源の認知度、魅力度、観光行動等を把握するため、インターネット調査を実施。 実施期間：2015年11月4日（水）～30日（月） 回答数：計1,154件 （来訪経験あり648件、来訪経験なし506件）	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知度が平均点以上の観光地は、「善光寺」「善光寺の門前町」「戸隠（戸隠神社、鏡池、戸隠そば）」である。これらの観光地は、魅力度も平均点以上であり、ブランド力がある観光地といえる。 ● 「戸隠高原」は、認知度は平均点以上であったが、魅力度がやや低い。それ以外の観光地は、認知度、魅力度が平均点以下であった。 ● 市外立ち寄り地点は、松本市、軽井沢町、小布施町、飛騨・高山が多い傾向にある。
2	来訪者調査（日本語） 善光寺、戸隠、松代来訪者の観光行動や課題、観光消費額（※経済波及効果算出のため）等を把握するために実施。 対面調査は、善光寺・戸隠・松代にて実施。留置調査は、市内各観光案内所にて実施。回答数328件	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内立ち寄り地点が1ヵ所のみの方が約5割を占める。特に初めて長野市を訪れる観光客において、その傾向が強い。1ヵ所のみ理由としては、「行きたい日数が足りない」が約5割。なお、善光寺での対面調査では「他観光地を知らない」もやや多くあげられている。 ● 市外立ち寄り地点は、小布施町、松本市、上田市、軽井沢町が多い傾向にある。
3	外国人旅行者調査 長野市を訪れた外国人旅行者の観光行動や課題、観光消費額（※経済波及効果算出のため）等を把握するために実施。 留置調査にて実施。回答数は116件。	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人旅行者は、東京と京都を訪れる途中で長野市に立ち寄っている。市内では「善光寺」、近隣では「湯田中温泉（スノーモンキー等）」「松本」に立ち寄る者が多い。「戸隠神社」に立ち寄っている旅行者も見受けられる。
4	GPS調査 長野市来訪者の観光動向を、属性・市内周遊状況・平均滞在時間などの指標から分析する。 現在、データ収集中。今後分析予定。	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査実施中
5	インバウンド調査 各国の主要ガイドブック等で、長野市の観光地がどのような評価を受け、紹介をされているのか把握を行った。 Lonely planet, Michelin, CHUBU（タイ）等	<ul style="list-style-type: none"> ● 「善光寺」「戸隠神社」が主に紹介されていた。 ● 「善光寺」は、Michelinで三つ星の評価を得ており、Lonely Planetでもしっかりと紹介されている。特に、歴史やお戒壇巡り、お朝事などにはない体験や、お土産や飲食店が並ぶ仲見世通りが評価されている。 ● 「戸隠」は、Michelinで二つ星の評価である。修験道など独自の歴史、奥社の杉並木の幻想的な風景が紹介されている。
6	観光事業者調査 市内で観光分野に携わっている事業者10団体（宿泊施設・交通・商店等）に対して、現状や課題、今後本市の観光において活用できる強み等について、個別にヒアリングを実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ● 近年の傾向として、「外国人旅行者の増加」「北陸地方からの観光客の増加」「バスによる団体旅行者の減少、個人旅行へのシフト」「滞在時間の短縮化傾向」「宿泊の稼働率向上」があげられる。 ● 長野市の強みとしては、歴史・文化、山岳、自然、食材等、よい素材がそろっている。資源を磨き、コーディネートしていくことが必要。また、東京、軽井沢、松本、金沢等へアクセスしやすい位置にあり、広域観光の拠点となりうることである。 ● 善光寺来訪者への他観光情報の提供不足により、周遊につなげられていない。近隣エリアの観光情報を積極的に発信し、少しでも周遊させる工夫が必要。もっと他地域の情報を知りたい。互いに勉強できる機会があるとよい。 ● 観光客に楽しんでもらい、お金を落としてもらう工夫ができていない。観光客増が経済活性化につながっていない。 ● 善光寺、戸隠では慢性的な駐車場不足、交通渋滞等が課題となっている。それにより満足度が下がり、今後来訪しないのではないか、との懸念がある。
7	現行計画の評価 テーマ別キャンペーン、施策の実施状況、成果、課題等を把握した。 各種統計データを用い、他地域と比較しながら本市の動向を把握。	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれのテーマについて、重点的に取り組んだことにより、新たなコンテンツが開発され、キャンペーン終了後も定着し、継続的に実施されているものもある。 ● まち歩き等のイベントは近隣からの参加者が多く、交流人口の増加につながったが、宿泊者数や観光消費額等につながりづらいものもあった。 ● 現行計画では「観光入込客数」「市内観光消費額」「市内宿泊者数」の3つを指標として掲げている。 ● 観光入込客数の目標値は、平成28年度に1,200万人である。御開帳時には1,500万人を超えるものの、それ以外の時期は1,000万人前後を推移している。善光寺への入込客数は横ばいであるが、それ以外は伸び悩むエリアが多い。国内の観光市場が縮小傾向にあることが影響している。 ● 市内観光消費額の目標値は、平成28年度に490億円である。現時点では目標値に達していない。 ● 市内宿泊者数の目標値は、平成28年度に220万人である。平成24年度より200万人台を維持しており、ほぼ横ばいで推移している。 ● 近年の特徴的な傾向は、外国人旅行者の増加である。しかし、白馬村、松本市と比較して伸び率は低い。
8	市民ワーキング 市民、観光事業者等のワーキングにて、長野市観光の現状の共有、必要事業の検討等を行っている。 ※構成メンバーは、各団体の推薦及び公募委員による	<ul style="list-style-type: none"> ● SWOT分析を実施。長野市全体の伸ばすべき強みとしては、特に「市街地と自然豊かなエリアが共存、近接している」に関連する項目が多くあげられた。克服すべき課題は、交通や宿泊施設といったハード面に関する課題、「市内周遊がなされていない」、「資源が活用しきれていない」等のソフト面に関する課題など多岐にわたっている。 ● 地域別の強みとしては、地域に存在するコンテンツ・観光資源に関する内容が中心。その他には地域で活動している人材（松代）や、立地特有の強み（戸隠・飯綱高原）の視点もあった。克服すべき課題は、善光寺界隈では多くの意見が寄せられ、その内容も周遊・動線・連携といった多様な視点からあげられた。他エリアでは、交通アクセスに関することが共通する課題である。

長野市観光の現状と課題把握 ～各種調査等の結果報告～（概要版）（2 / 2）

長野市観光を取り巻く状況

NAGANO

- 日本人の入込客数は長野市全体として横ばい。しかし、減少傾向の観光地もなかにはある。
- 外国人旅行者は増加傾向だが、白馬村や松本市と比較して伸び率が低い。
- 市内消費額の目標値は平成28年度490億円であるが、平成26年度は422億円と、達成率86.1%。
- 市内宿泊者数の目標値は220万人であるが、現行計画期間では達成していない。平成24年度から210万人台で推移している。
- テーマ別キャンペーンで重点的に取り組んだことにより、新たなコンテンツが開発されている。実施事業の中には、キャンペーン終了後も定着し、継続的に実施されているものもある。

長野市観光の強み

- 市内には**多種多様な良いコンテンツ**があり、**選択肢が多い**場所
市街地と自然、歴史的なまち並み、美しい山里の風景、オリンピック施設、買物、食事
ミシュランで善光寺は三つ星、戸隠は二つ星であり、世界に誇れる場所である
- 長野市は**ハブ機能**を有する場所、**広域観光の拠点**になれる場所
松本・金沢・軽井沢・上田・山ノ内・富山までのアクセスがよい

認知度が非常に高い観光地は「善光寺」「戸隠」。
市内の他の観光地の認知度が低い。「松代」も高くない。
市内周遊につながっていない一因となっている。

長野市来訪者の観光行動と声

- 市内をあまり**周遊しておらず、平均滞在時間が短い**。特に善光寺の滞在時間が短く、足早である。
 - ・ 来訪者の大半が善光寺、戸隠、松代を1ヵ所訪れ、市外へ移動している。
 - ・ 善光寺来訪者は市内観光地よりも、松本市、軽井沢町、小布施町など市外観光地に流れている。宿泊は、他地域に（松本市等）に流れている可能性がある。
 - ・ 松代来訪者も歴史的つながりにより上田市に立ち寄る傾向が出てきている。
 - ・ 外国人旅行者はほとんど市内周遊していない。スノーモンキー、松本市へ立ち寄っている。
 - ・ 善光寺、戸隠には定期的に訪れている層（参拝者）がいる。
- 観光客の満足度は「まあ満足」が多い。善光寺来訪者は、特に**良いところ、課題は「特になし」**という意見が多く、**やや感動が薄い**。
- 駐車場が少ない、バスで行きづらい、行き方がわかりづらいという声もあった。**二次交通に課題**

観光事業者が感じている課題

- 事業者間の連携ができておらず、それが原因で市内周遊を生み出せていない場合がある。また、市内の他観光地のことがわからず、**他地域の歴史、文化、特性について、観光客に尋ねられても、説明できず、どのお店や施設を勧めれば良いのかわからないことが多い。もっと他地域の事業者と交流を図り、互いに勉強し合い、情報共有を進めたい。**
- 善光寺周辺や戸隠では慢性的な**駐車場不足、交通渋滞等**が課題。それにより**満足度が下がり**、再来訪しないのではないかと懸念も持っている。二次交通も弱い。
- 観光消費額を増加させる工夫ができていない。**稼ぎ方が下手で消費につながる機会を逃している**。善光寺門前エリアなどは人が周遊するようになってきているが、お金を落とさせる工夫ができておらず、稼ごうという意識も低い。
- 地域によっては、観光客が来ててもあまりお金を落としている実感がない。

“いろいろ楽しめる場所があるのに”、“長野市を拠点にいろいろまわるのに”**観光客は足早に長野市を通り過ぎてしまっている**。
年間600万人が訪れる「善光寺」の来訪者は、“観光”よりも“参拝”の要素が強いため、もっと良いところがあるのに、足早に他地域へ移動している。
長野市を訪れた観光客は“見ること”を中心にしており、歩いたり、食べたり、体験したり、ということをしていない。また、そのような“楽しみ方”をしてもらおう仕掛けも十分ではない。

もっと楽しい場所、いい場所があるのに、市外へ行ってしまう人たちを振り向かせるために・・・

「見る」を中心とした観光地から、歩いてもらい、いっぱい食べて飲んで、泊まって、人とふれあいながら「感動」をしてもらえる観光地へ
そのために特に必要なこと：観光資源のブラッシュアップ、ゆっくりと市内観光地をまわる仕掛けづくり、観光消費を促すコンテンツや仕掛けづくり、宿泊の促進（朝・夕のコンテンツ強化）、それを生み出す事業者間連携、そして観光資源の認知度や魅力度を向上させる統一されたプロモーション、広域観光の拠点化（宿泊地）や気持ちよく観光してもらうための基盤整備などの取組みが求められる。



参考資料：統計データ等を用いた動向把握の詳細

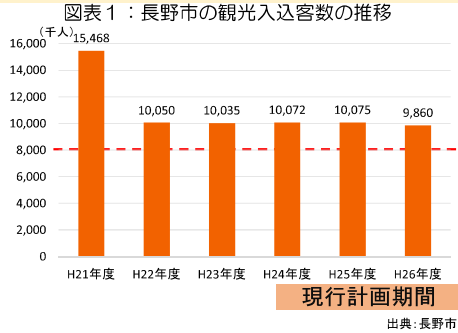
現行計画では、「スローツーリズムを楽しむまち 長野」とし、観光資源の魅力をゆっくりと観光客に味わってもらえる都市を目指してきた。計画目標として、「観光入込客数」「市内観光消費額」「市内宿泊者数」の3つを指標として掲げており、それぞれの目標値、統計データは以下のとおりである。
※長野県観光地利用者統計の数値は、平成24年以降、調査地点の変更があり、推移は単純には比較できない。

スローツーリズムを楽しむまち 長野

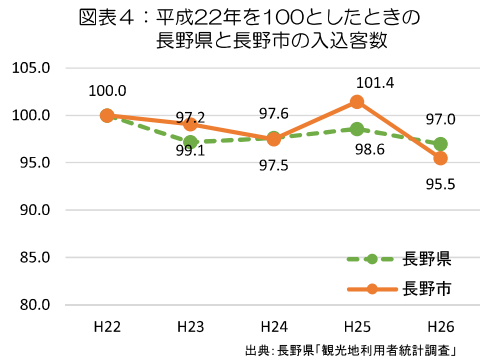
①観光入込客数

目標値：1,200万人（H28年度）

- 観光客数は、平成25年度までは1,000万人を上回っていたが、平成26年度は下回った。
- 1,200万人達成に向けては、現状よりも200万人～300万人の増加を目指す必要がある。



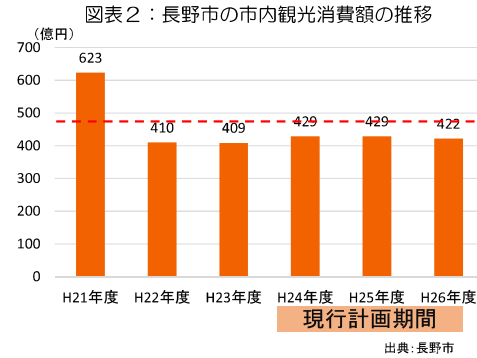
観光入込客数（長野県・観光地別）



②市内観光消費額

目標値：490億円（H28年度）

- 市内観光消費額は、平成24年度以降420億円程度で推移しているが、現状、目標値である490億円には達していない。



図表5：市内観光地別入込客数の推移

	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H22→H26 増減率
善光寺	6,094	6,074	6,263	6,532	6,100	1.00
飯綱高原	856	807	825	975	893	1.04
松代	608	528	511	541	495	0.81
川中島	200	274	306	246	266	1.33
聖山高原	43	46	42	40	39	0.91
戸隠高原	1,232	1,234	1,186	1,168	1,190	0.97
鬼無里	132	123	109	109	79	0.60
信州新町	110	114	166	162	159	1.45
中条村	16	14	42	48	50	3.13

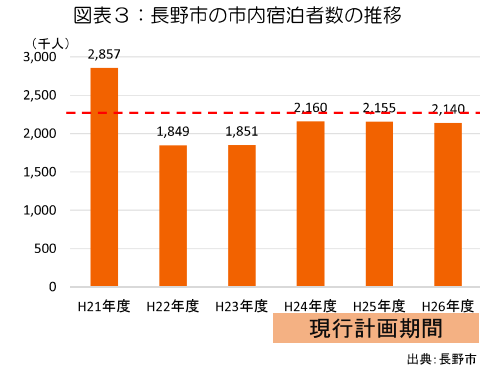
松代、鬼無里が減少傾向

出典：長野県「観光地利用者統計調査」

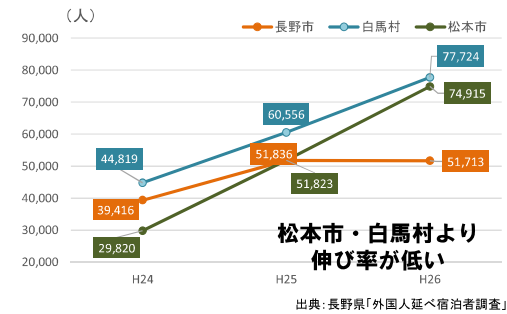
③市内宿泊者数

目標値：220万人（H28年度）

- 市内宿泊者数は、平成24年度より200万人台を維持している。



図表6：長野県の外国人延宿泊者数上位3自治体の動向

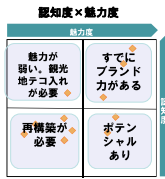


参考資料：実施調査の特徴的な結果

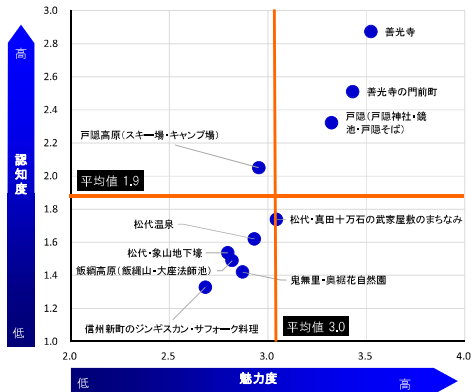
①長野市観光資源の認知度と魅力度

Web

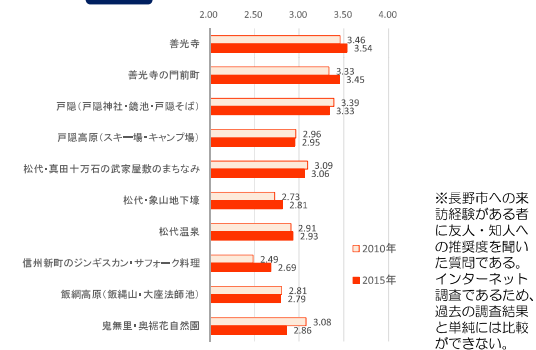
- 認知度と魅力度を平均点化したものである。すでにブランド力がある観光地としては、「善光寺」「善光寺の門前町」「戸隠（戸隠神社、鏡池、戸隠そば）」が該当する。
- 魅力は弱い、認知度がある観光地は、「戸隠高原」である。それ以外の観光地は、認知度、魅力度が平均以下であった。



図表7：長野市観光資源の認知度と魅力度



Web 図表8：魅力度の経年変化

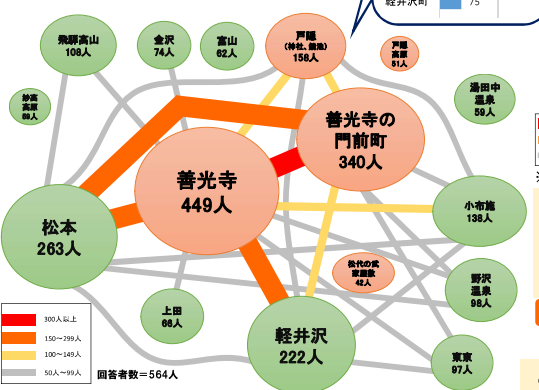


※長野市への来訪経験がある者に友人・知人への推薦度を聞いた質問である。インターネット調査であるため、過去の調査結果と単純には比較ができない。

②長野市来訪者の立ち寄り地点

Web 日本人旅行者の立ち寄り地点

図表9：日本人旅行者の立ち寄り地点



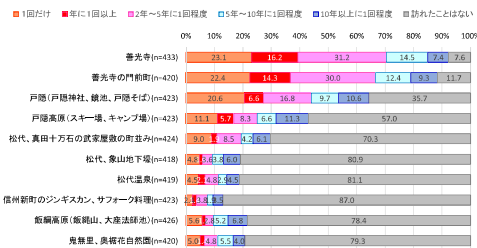
※直近の長野市旅行で立ち寄り地点を集計
 ※Web調査による回答者564人の各観光地立ち寄り人数を集計

- 善光寺・善光寺門前町・松本・軽井沢という動きが多い。
- 善光寺・戸隠・小布施という動きも比較的多い。

③観光地別来訪回数

Web

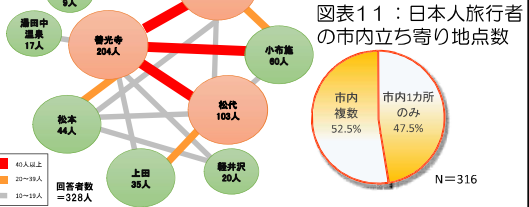
図表13：観光地別来訪回数
 (回答対象：2回以上長野市来訪経験者)



- 「善光寺」は、5年に一度以上訪れている者が5割弱おり、定期的に訪れている者が非常に多い。
- 善光寺より少ないが、戸隠にも5年に一度以上訪れている者が約2割いる。それ以外の観光地は、定期的に訪れている者が少ない状況である。

対面・留置 来訪者調査(10～11月)での立ち寄り地点

図表10：日本人旅行者の立ち寄り地点
 善光寺来訪者の16%が戸隠、13%が松代に立ち寄りしている。

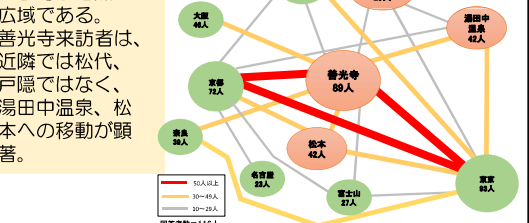


図表11：日本人旅行者の市内立ち寄り地点数
 N=316

- 松代・上田（真田つながり）、松代・松本（お城つながり）の動きも見られた。栗の時期のため、小布施とのつながりも強い。
- 市内立ち寄り地点が1カ所のみの方は、約5割。

留置(海外) 外国人旅行者の立ち寄り地点

図表12：外国人旅行者の立ち寄り地点

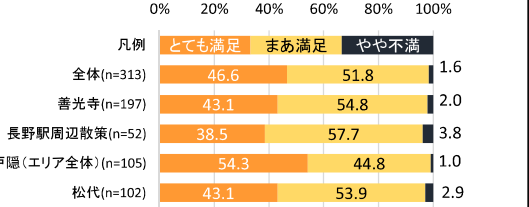


※海外旅行者を対象とした留置調査による回答者116人の各観光地立ち寄り地点人数を集計

④来訪者の満足度

対面・留置

図表14：来訪者の満足度



- 回答者数の多い善光寺、長野駅周辺散策、戸隠エリア、松代でみると、戸隠エリア以外で、「まあ満足」が「とても満足」を上回っている。